

令和7年度  
近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験  
【一般】

心 理 学 専 攻  
外 国 語 科 目 試 験 問 題

英語【心理学コース】

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をお読みください。

- 1) 解答ははじめの合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2) 机の上には、受験票、HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式は除く)、時計(時計機能だけのもの)、眼鏡以外のものは置かないでください。
- 3) 辞書については、持ち込を許可されている専攻・コースのみ使用可能です。(電子辞書は除く)
- 4) 試験開始後、解答用紙にコース名・受験番号・氏名を記入してください。
- 5) 試験開始後に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気が付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 6) 試験終了後、問題冊子はお持ち帰りください。

令和7年2月15日実施

問1. 以下の英語を心理学用語として和訳しなさい。(各5点)

- (1) construct
- (2) operational definition
- (3) reliability
- (4) validity

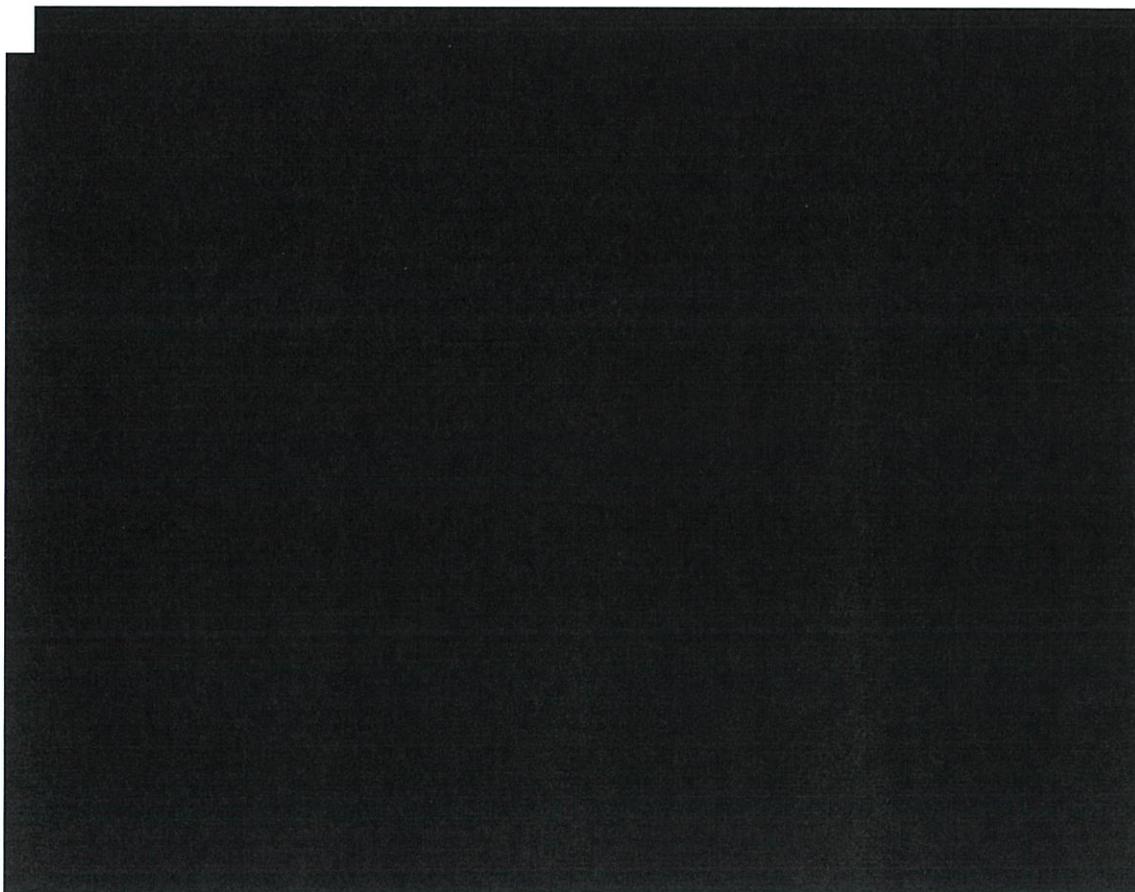
【解答例】

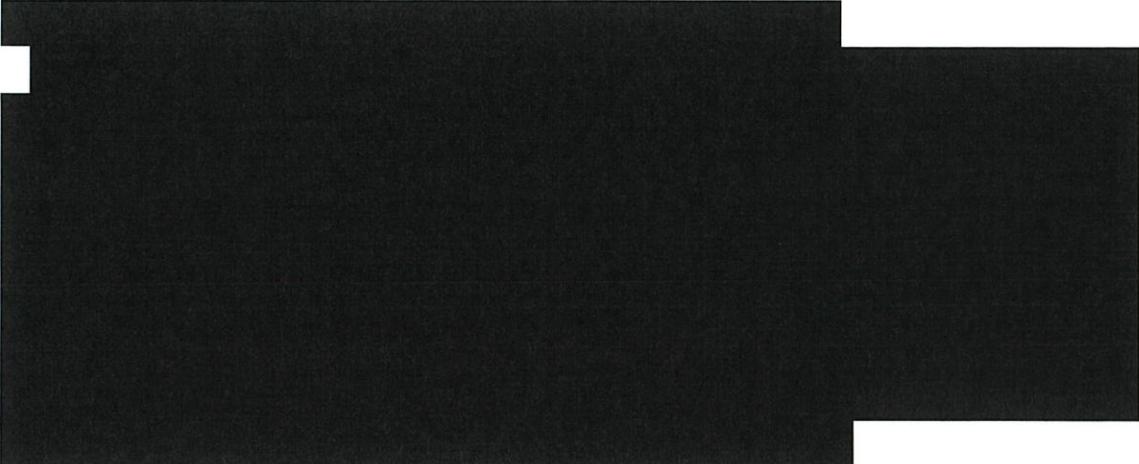
- (1) 構成概念
- (2) 操作的定義
- (3) 信頼性
- (4) 妥当性

【出題意図】

心理学に関する専門用語を適切な日本語に訳すことができるか。

問2. 以下の英文を読み、続く設問に応えなさい。(本文は著作権の関係により掲載不可)





(出典：Fujita, K. (2011). On conceptualizing self-control as more than the effortful inhibition of impulses. *Personality and Social Psychology Review*, 15, 352 - 366.)

問2-1. self-control とはどのように定義されるか述べなさい。(10点)

問2-2. self-control が難しい理由を dual-motive conflicts の観点から述べなさい。(10点)

問2-3. Walter Mischel の研究はどのようなものか述べなさい。(20点)

**【解答例】**

問2-1. 自己統制は小さな即時的報酬よりも大きな遅延報酬を選好する傾向と定義される。

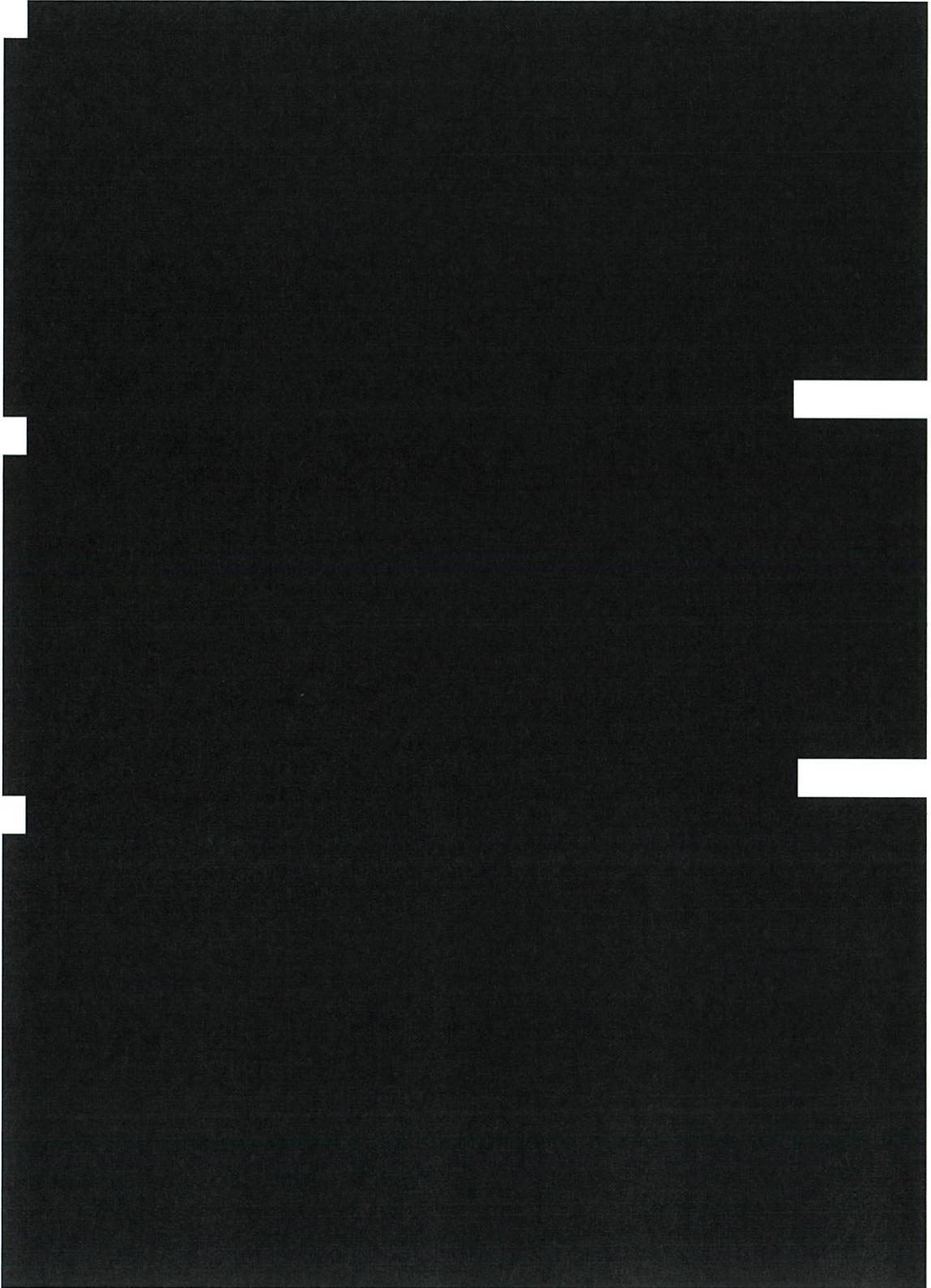
問2-2. 自己統制はその過程において、(1) 即自的目標を追求する動機と(2) 抽象的で遠い将来の目標を追求する動機が葛藤するという点にその本質があるが、これらはいずれかしか満たすことができない。自己統制を発揮するには、(2) の動機を追及する必要があるが、(1) の動機は時間的に近接し、顕著であるため、自己統制が困難となる。

問2-3. 子どもたちに即自的報酬としてマシュマロを1つ提示し、15分間そのマシュマロを食べずに待つことができれば、マシュマロを2つもらえる、すなわち、より大きな報酬を与えると教示した。したがって、子どもたちはマシュマロを1つこの場で食べてしまうか、後でマシュマロを2つもらうかという自己統制のジレンマに直面することになる。結果は4歳未満の子どもで15分待ち通すことができる者は極めて少ないというものであった。

**【出題意図】**

社会心理学に関する学術論文(英語)を正しく読み、論文の内容を適切に把握できるか。

問3. 以下の英文を読み, 続く設問に答えなさい。(本文及び図は著作権の関係により掲載不可)



(出典：Moffitt, T.E. (1993). Adolescence-limited and life-course-persistent antisocial

behavior: A developmental taxonomy. *Psychological Review*, 100, 674-701.)

問 3-1. 下線部を和訳しなさい。(10 点)

問 3-2. 先行研究では、反社会的行動の stability と extremity の関係をどのように説明しているか述べなさい。(10 点)

問 3-3. Figure では、非行少年の 2 つの類型が仮定されているが、各類型名称を挙げたうえで、それらの非行パターンの特徴の違いについて具体的に述べなさい。(20 点)

**【解答例】**

問3-1. 思春期に入ることが犯罪を行おうとする人間の数を増やすのか、それとも少数の常習的な加害者が思春期に入ることによってたんに犯罪行為の頻度が増えるのかということである。現在の実証的評価は、前者の説明が正しいことを示している。

問3-2. 反社会的行動の stability と extremity は正の関係にあり、反社会的行動の頻度が極めて高い少数の個人はその行動が時間的にも状況的にも安定して持続している。すなわち、反社会的行動の程度が極端であるほど、その行動様式は生涯にわたって一貫して持続しやすいといえる。

問3-3. ひとつめは、「青年期限定型」であり、反社会的行動は一時的なもの、すなわち青年期に限定されたものであるといえる。ふたつめは、「生涯一貫型」であり、ライフコースのあらゆる段階で何らかの反社会的行動に関与している。

**【出題意図】**

犯罪心理学に関する学術論文（英語）を正しく読み、論文の内容を適切に把握できるか。